

# 第1章 神奈川区地域福祉活動計画の策定にあたって

## 計画の背景(地域で対応が求められている問題)

### 神奈川区の地域の現状

単身世帯の増加、高齢化の進展などの中で地域のつながりが希薄になり、地域で孤立化している人が増えていきます。

そうした中で既存の制度だけでは解決できない様々な生活上の問題が発生しています。

## 地域の支えあいの課題

### 1. 孤立世帯の増加

孤独死、子育て家庭の孤立、児童・高齢者虐待の増加、老障介護<sup>\*</sup>、老老介護

### 2. 災害時等の生活不安

消費者被害、災害時の避難、ちょっとした手伝いを頼めない

### 3. 担い手の不足

民生委員児童委員、ボランティアなど担い手の不足

#### ※老障介護

高齢となった親などが障害のある子や孫などの介護をしている家庭など

## なぜ、計画が必要なのでしょう

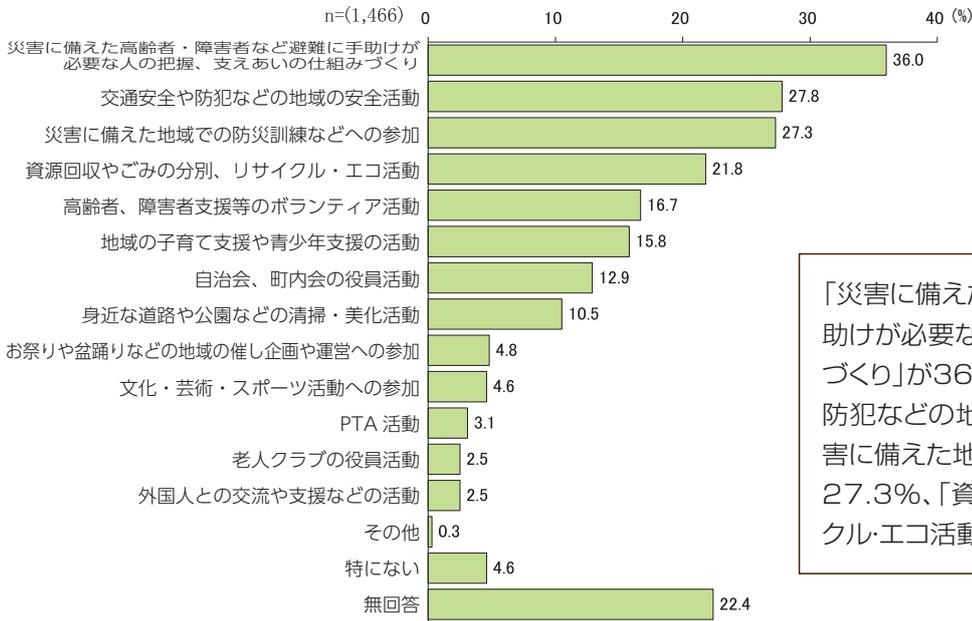
これからは、行政や区社会福祉協議会、地域ケアプラザ・地域包括支援センターが、地域の皆様といっしょになって力をあわせ、高齢者、障害児・者、こどもを見守り、地域の中でお互いに支えあい、助け合える関係をつくっていく必要があると考えています。

身近な地域ごとに、地域の皆様と協力して、住民同士のつながりや支えあいの活動(=共助)をつくっていくため、計画の策定に取り組んでいきます。

### 平成24年度 神奈川区 区民意識調査報告書からの抜粋の紹介

神奈川区役所では、20歳以上の区民3000人の皆さんを対象に、郵送による無記名調査を実施し、地域の活動について、「特に重要だと思う活動」と、防災について、「災害発生時に希望する手助け・できる手助け」について伺いました。その結果を紹介します。(平成24年10月)

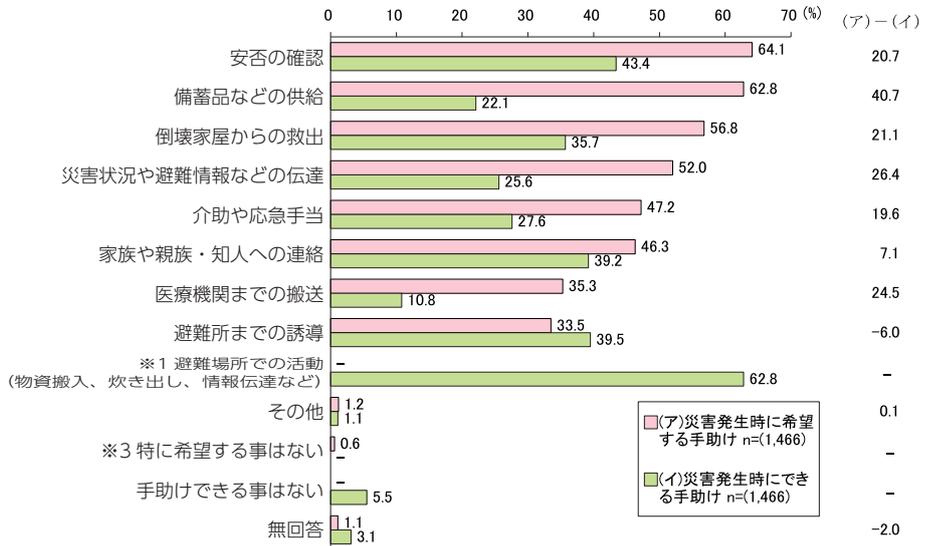
## 地域の活動について、特に重要だと思う活動



「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」が36.0%で最も高く、「交通安全や防犯などの地域の安全活動」27.8%、「災害に備えた地域での防災訓練等への参加」27.3%、「資源回収やごみの分別、リサイクル・エコ活動」21.8%となっている。

## 防災について、災害発生時に希望する手助け・できる手助け

災害発生時に希望する手助けで最も割合の高い「安否の確認」(64.1%)は、災害発生時に出来る手助けでは43.4%で20.7ポイントの差がある。次いで割合の高い「備蓄品などの供給」(62.8%)は、できる手助けは22.1%で40.7ポイントの大きな差となっている。一方、災害発生時にできる手助けの方の割合が高いのは、「避難所までの誘導」39.5%で必要とする手助けより6ポイント高くなっている。



地域の活動では、特に重要だと思う活動は、「災害に備えた高齢者・障害者など避難に手助けが必要な人の把握、支えあいの仕組みづくり」が36.0%で最も高くなっています。防災について、災害発生時に希望する手助けで最も割合の高い「安否の確認」(64.1%)は、災害発生時にできる手助けでは43.4%で20.7ポイントの差があります。

## 区地域福祉保健計画と区地域福祉活動計画



地域福祉保健計画とか地域福祉活動計画って何ですか？



地域の中でお互いに支えあえる、助けあえる関係をつくることを目指す計画です



誰が中心になってどんなことに取組むのでしょうか？



現在、地域の中で安心、安全なまちづくりのために支えあい活動に取り組んでいる皆様と区役所、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会などの公的機関が中心となって、地域の課題解決に取り組む、活動をさらに充実していこうとするものです

### 地域支えあいの主な課題



#### ① 孤立世帯の増加

地域で孤立している世帯が増えていく中で、一人暮らし高齢者の孤独死、児童虐待、老障介護などの問題が発生しています



#### ② 災害時の不安

東日本大震災を契機に、災害時に対する住民、とりわけ要援護者世帯から、不安が高まっています



#### ③ 担い手の不足

要援護者に対する見守りや相談、援助を行う民生委員やボランティアは、担い手の高齢化などの中で不足しています



今回の計画にはどんなことが書いてありますか？



#### ① 21地区ごとの地域の取り組み状況を掲載しています

平成22年度からスタートした区地域福祉保健計画に掲載した21地区ごとの重点課題と今後の取り組みについて、その後の2年間の取り組み状況を掲載しました。

#### ② 神奈川区で行われている地域福祉活動のしくみを掲載しています

(高齢者支援、障害児・者支援、子育て支援・青少年育成)

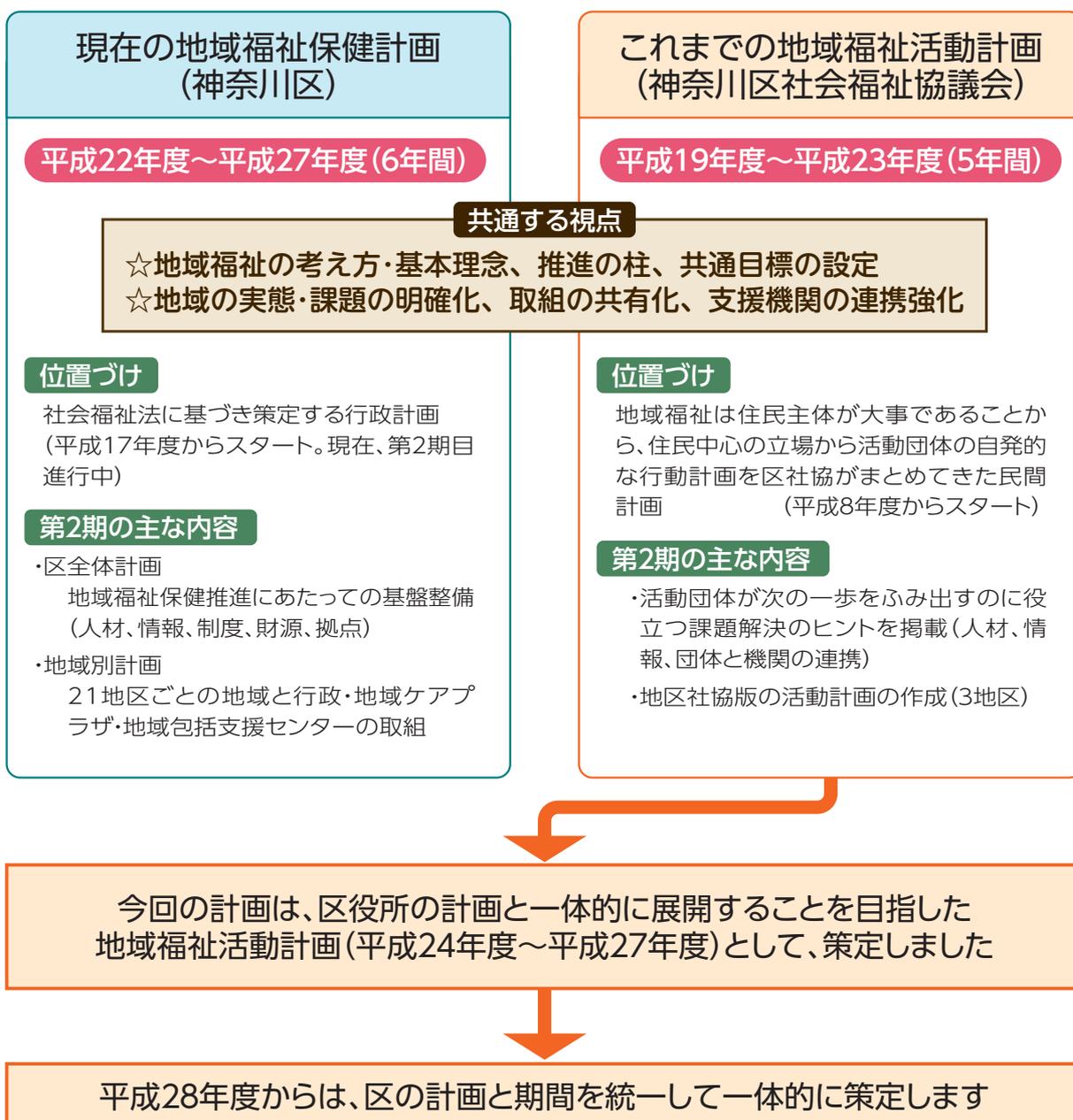
#### ③ 区社会福祉協議会が関係機関と連携して、地域の皆様と進めていきたい活動の支援策を掲載しています

## 区地域福祉保健計画と区地域福祉活動計画の一体的な策定について

両方の計画を平成28年度からは期間を統一して一体的に策定していきます

	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31 (年度)
区役所が策定した計画				第2期 神奈川区 地域福祉保健計画(6年間)						28年度からは、 期間を統一して 一体的に策定します			
区社協が策定した計画	第2期 神奈川区 地域福祉活動計画			今回、策定する地域 福祉活動計画(4年間)									

地域福祉保健計画(神奈川区)と地域福祉活動計画(神奈川区社会福祉協議会)とのこれまでの関係



## 第2期 神奈川区地域福祉活動計画の振り返り(19年度～23年度)

### 1 計画で目指したもの

地域活動の推進役となる団体や個人を対象とし、活動者自らが活動計画をつくり、発展させていただけることを目指しました。

#### 振り返り

地区(子安通1丁目地区、大口・七島地区、青木第二地区)で地区社協版の計画づくりの取組がありました。今後も、地域の活動者が発展していくために役立つ計画という視点は継承していきます。



大口・七島地区地域福祉活動計画発表会のようす



大口・七島地区  
地域福祉活動計画 冊子

### 2 地域別に取り組んだ事例

3地区での地区社協版の計画づくりの取組のほか、23年度に各地区社会福祉協議会ごとに活動を紹介したパンフレットを作成していただき、住民の皆さんへPRしました。

#### 振り返り

22年度から区地域福祉保健計画で21の地区連合町内会を窓口として、地域の皆さんと区役所、地域ケアプラザ、区社会福祉協議会がいっしょになって地域の重点課題を解決していく取組が始まっています。今後、区社会福祉協議会はこの取組と平行して21の地区社会福祉協議会や身近な自治会・町内会、民生委員担当地区での見守りや要援護者からの相談、援助、ボランティア活動の推進などの支えあいについて、地域と協働して取り組んでいきます。

### 3 テーマ別に取り組んだ事例「担い手づくり」

活動団体に役立てていただくため「振り返りシートの作成と検証」を委員会を設置し行いました。また、活動計画推進委員会でボランティア活動に関するアンケート調査を実施し、ボランティアの確保について考える集会を開催しました。

#### 振り返り

23年度から、区役所、地域ケアプラザによる「地域づくりデビュー」講座が開催されています。また区社会福祉協議会ではこれと連動して24年度から地区社会福祉協議会で身近な地域での簡易な援助活動を行う「地区ボランティアセンター モデル地区事業」(菅田地区、大口・七島地区)が始まっています。

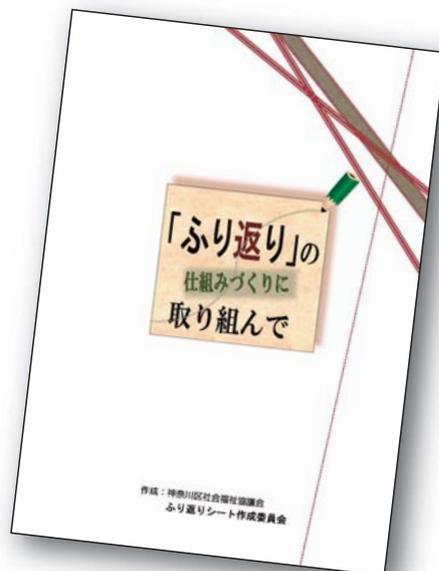
今後はこうした取組を地域の皆様と協働して取り組んでいきます。



◆振り返りシートの実践（おはなしのとびら）



振り返りシート作成委員会  
報告書▶



## 4 テーマ別に取り組んだ事例「情報」

活動計画推進委員会では、食事サービスなど活動別のボランティアグループの全体交流会を行ったほか、23年度から毎年、地域ケアプラザを会場にして地域別にボランティアグループの情報交流会を開催しています。

### 振り返り

- ボランティアグループの交流会は、毎年区域で活動別に、また地域ケアプラザを会場に地域別に開催しています。
- 23年度より、区役所から民生委員児童委員へ、在宅で75歳以上のひとり暮らし高齢者の情報を提供して進める『ひとり暮らし高齢者「地域で見守り」推進事業』がスタートしています。また、東日本大震災を契機に要援護者の情報を地域の防災組織に提供し役立てていただくことも検討されています。神奈川区ではふれあい訪問活動が盛んですが、今後は地域活動の関係者と公的機関が連携して、身近な地域ごとの支えあい活動を充実していくことに取り組んでいきます。
- 24年1月から、区社会福祉協議会では障害児・者の外出支援に関するサービス情報の相談窓口「でかけよう!神奈川(移動情報センター)」を開設しています。今後もこうした情報支援を行っていきます。
- 19年2月に立ち上げた子育て情報ホームページ「はぐはぐ神奈川」は多くの子育て家庭の情報源として喜ばれています。区地域子育て支援拠点「かなーちえ」とも連携し、情報支援を行っていきます。



地域をつなぐ交流会（新子安ケアプラザ）



地域をつなぐ交流会（反町ケアプラザ）

## 5 地域の福祉課題解決のための取組を支援する「わくわく!ステップ」(地域福祉活動計画助成金)の創設

第2期の地域福祉活動計画を推進し、「これからも住み続けたい神奈川県」を目指すため、創設しました。活動計画に載っている項目の実践の際に利用できるもので次のようなことに助成しました。

**【活用事例】** 認知症高齢者支援マップの作成、地域情報を発信する電子掲示板の設置、障害者のための防災スカーフ普及運動など

### 振り返り

地域で継続して実施されている行事やボランティア活動とは違い、地域の福祉・保健課題を解決するための活動に助成する制度で、いくつかの新たな取組が生まれました。こうした新たな取組に対する助成制度は今後も継続していきます。(助成額などは別途、検討します。)

神奈川県地域福祉活動計画 推進委員会 活動年表

年 度	内 容
平成19年度	活動計画の広報活動 活動計画の実践に向けて
平成20年度	活動計画推進委員会の活動について 活動計画助成金「わくわく!ステップ」の検討と策定
平成21年度	「わくわく!ステップ」の見直し 地域活動団体に対するアンケートの実施
平成22年度	ボランティアグループリーダー研修の実施 新規ボランティア発掘講座の開催 活動計画の評価について
平成23年度	次期活動計画の策定に向けて 地域福祉保健計画との一体的な策定について

### 神奈川県社会福祉協議会 地域福祉活動計画推進委員会※ 委員(平成25年1月31日現在)

東口 全恵 (元三枚地区連合自治会長)      中島 進 (配食サービス さくら会)  
 伴 敬子 (ボランティアグループ フレンドワン)      倉石 芳枝 (菅田地区社会福祉協議会)  
 瀧川 陽子 (横浜やまびこ会 神奈川支部)      田村 三奈 (区障害者作業所連絡会)  
 今村 治子 (沢渡三ツ沢地域ケアプラザ)

#### ※地域福祉活動計画推進委員会

計画の進捗を把握し、掲げた活動を推進するために区社協が設置した内部組織